北蝦夷圖說

南方初島部
ヲロッコ夷部

三

ル 4
3627
3

ルイ
3627
壱 3

北蝦夷圖說卷之三

常陸　間宮倫宗口述
備中　秦　貞廉　編

産業部中

一島夷の業とするところ海漁ハ蝦夷島と異なるこゝろく鮭鱒鯡其他雜魚を漁し此島鯡殊に多く春ゝ必羣集するゝと數度あり其時ハ海面一色に白くなるゝまで米泔の如し夷等其趣を見得て是を漁らるゝ纖網を以てし其得るゝ甚多し又夜中ハ火を點して海岸を漁することあり其狀圖のごとし此二漁蝦夷島の夷專らゝ行ざるところなり

昭和廿一年十二月廿日

一山猟し又異なるなしとゝ云へども獸皮を以て山且夷或て滿州ゝ交易ゝるゝこと此島夷の專務とゝるゝゝゝゝなれども男夷專ら是を勤む其狀蝦夷島ゝ異るもの下ゝ圖說ゝ

一ホイヌと猟なるゝゝ圖のごとく溪間野中の小流ゝ木を渡なして獐を設け獸來て此木を渡る時獐發して獸の身體を縛し水中ゝ投ぜしむ跳躍して遁ゝむとゝるの間浮沈して水をゝゝひ終ゝ死ゝ此獐　本邦のそねわるゝ異るゝゝゝゝゝ

一只木の横面ゝ設け獸を浮る時て水を投ぜしむるゝゝゝゝゝなひたゝ巧ゝゝ

一リキンカモイと猟なる事ゝ獐を設くて是を獲る獸常ゝ

岩山ゝ居なるものなれて岩ゝ聳ゝゝて其間獸路ある所ハ悉く是を設るゝゝ圖のごとし

一トナカイと猟なる事ハ熊猟の如くゝ鎗を以ゝゝゝと云

一狐と猟なるの術圖のごとく枝木を建て其上ゝ魚を掛る時なて狐魚を羨て木を攀ぢ上下ゝる時是枝間ゝきゝまれて終ゝ得らるゝゝ云此他狐を得るの術種ゝあるゝゝゝゝゝ林藏其詳なるゝゝと見ざれど圖說を出さゝ

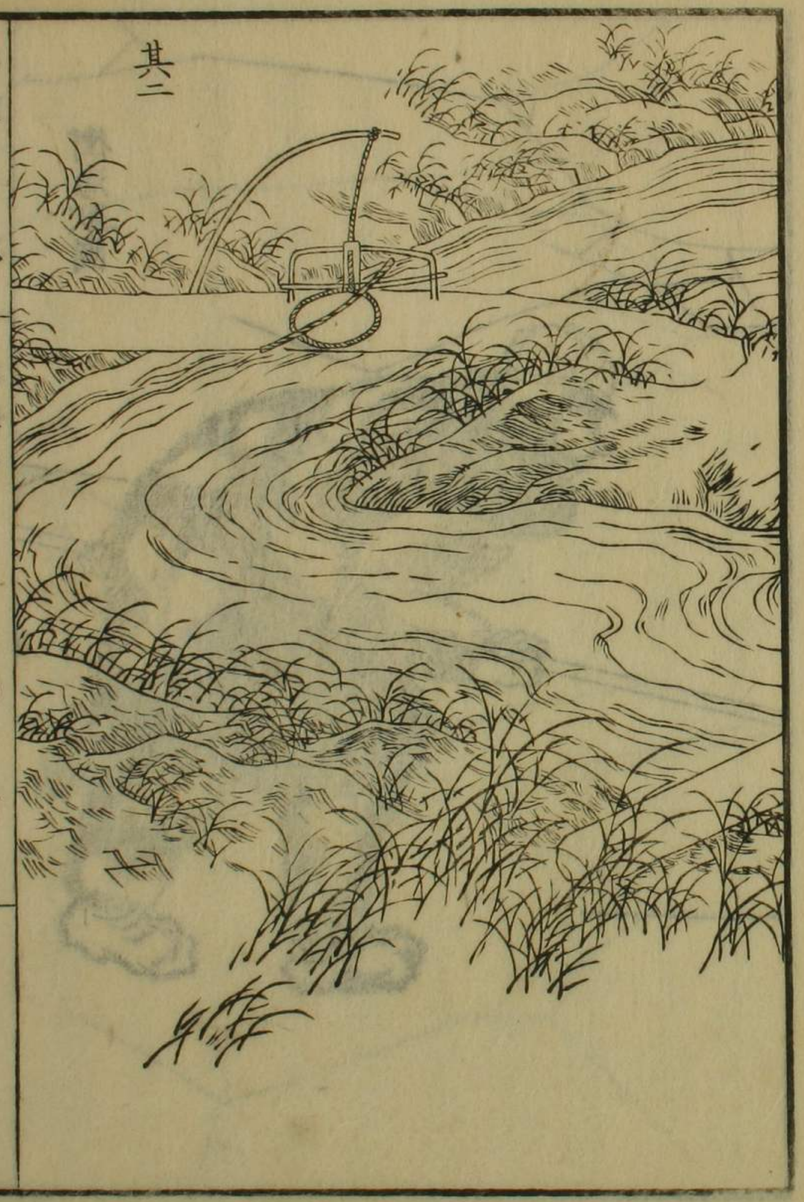
一獺と獲る爪圖のごとくなる自發弩を製し河邊ゝ置獸來て垂糸の魚をひく時ハ弩なのつゝゝ發して獸を得るゝゝ

一グーアマと称なる猟器ある是亦自發弩なり山野獸路ゝ設

獵狐圖

獲獺圖其一

其二



衝海獸圖

置て熊狐の類を獲る蝦夷島よりつるところの物なれど圖を出さゞ

一熊を獲る事ハ蝦夷島と同さく毒箭を用ゐいへども其毒蝦夷島の如く其効を奏せゝ故ふ矢を放つ〳〵是を中るゝゝ〳〵ども獣忽ち斃ざる時ハ何地迄も是を追ひ數矢を放て是を獲る若矢種つきて獣猶斃ざる時ハ鎗を以て是を追ひ幸ふして是を及ぶ時ハ突衝して是を獲るなり其衝痕所を得ざる時ハ獣怒て夷を攫せむとすゝ〳〵と相戦て是を得ると云故ふ山猟必ず鎗の両器を携ふ其剽毅なるとゝ〳〵ぐ

一海獣てトゞ水豹の類を猟ひ初夏より末秋ふるるの間く筏の如く木を連編て海上ふ浮め置水豹来て此上ふ乗ると窺ひ島夷舩を出さて蝦夷島臨肭獣を獲るゝ〳〵く稃を擲て是を得又た長稃を以て衝獲るゝ〳〵とゝ〳〵ども冬月の須水豹海岸洋中の氷上ふ出遊ひるを見る時ハ長稃を以て衝得るゝ〳〵圖の〳〵〳〵

一山猟ふ行時ハ三四て山中ふ滞留さて猟とゝ〳〵ども其持行ところの糧と乾魚の肉など僅三日の貯とゝ〳〵のとふ〳〵ども獣の所在を迅得る時ハ三四日食せゝて是を追ひ終ふ其獣を得て帰て来ることゝ〳〵と云其強忍ゝて知べし

交易

一此島の夷ハ我シラヌシ ふ来て諸物と交易し又山丹夷ヲロツコ。スメレンクルの夷と交易ゐて其生産となるものを以て是島夷の専務とするところなり凡シラヌシより来る者東はフヌツプ（地名里数を欠）西てナヨロ（地名シラヌシを去ること九五十里）の邊を以限りとしてこゝ是終歳中往来ゐて漁猟の業とする又交易となる者ゐ是より奥地の夷と只交易のことを事として一年の中一両度往来ゐ其交易するところの物我渡ゐところの物ゐ獸皮米酒木綿烟草斧針鍋の類と以てそれで島夷ハ山丹より来るところの錦ゐ烟管其他鷲羽トナリ（獸皮を以て製し縄より）

一（用ゐる者）の類と持来て交易ゐ又府ふ来て傭（やとい）働し業となるものあり

一此島の夷山丹夷と交易するゐと終歳ゐるところなり然て島夷山且より来るふあるゐ山且夷来て交易するなり島夷のもつゐるところの物ゐシラヌシより易帰るゐ又ハ捕獵し得たる獸皮或ハ斧小刀の類と以て山且夷齎（もたら）し来るところの木綿錦烟管烟草針の類と交易ゐ

一山且夷来る時ハ先海濱ふ假屋を造り居となり山猟とこのせぎなるゐ交易とするゐ島夷大抵其假屋に来りて交易となゐ山丹夷ハ家ふ入て交易ゐることあり或ハ路傍街上より

て交易することあり一定のことなしと云

一山丹夷来る時ハ島夷日〻其假屋ニ至て相親て交易し又其物を貸ることあれども其夷等の事なれハ後日其價を責ることあれども憂ふ安諸物を借ル来て終ニ其債をつくのふ亦とあるハ山丹夷帰去の時ニ當て其責ふ苦し遁逃して山ニ入る者ハ多し然る時ハ明年山丹夷又来て其債を贖しめ其贖とあるとあるハ其子其兄弟を率ゐ帰て質となすと云

一借貸の事素より筆記の事なく其贖を責るの時ニ當て

も山丹夷ハ安語を以て夷等を強ること多し故ニ相共て其交を論ぜて相撲擊ることなく少なくハ然れども又以ての外相和して又舊の如く物を貸して帰て去ると以奥地ヲロツコ〇スメレンクルの類来て交易ス又大抵如此

一此島の夷人を以て山丹夷ニあらざるハ男女ニ限らず其部落ニて鰥寡孤獨の親類縁者なく貧困幼弱ふる者ハ往て誘引して山丹夷ニ交易し一夷の價錦三四巻ニあり其人の強弱ニより乃至六七巻を以てし若其人殊ニ幼弱なるハ又ハ懦惰にして用ふ堪ざる者ニ至ては其價錦を得

る事あるべし雜語といてもてる者あり

一蝦夷島は北海岸或てリイシリの住夷此島小渡りて山且夷と以ども其孤獨にして親族の拒なれもれて悉く誘引来て山且夷小交易いるもの多し故にスメレンクル山且夷の部落に入て往〻唇頭黥點の女夷あること屢見しと云

一島夷滿州にゐる夷往昔八一歳中小數度あるべ趣なれども近代　本邦の諸物大抵島中に編くもてしより今八二三年小漸一度は渡海もる趣なり其齎し行ところはホイヌの皮を上品として其他獺狐の類を持行滿州の假府テレン（即德楞哩）小ふるて貢ともべ交易とるべ持歸るところの物を山且夷の持来るところの物小異るもの形といひども滿州夷の渡りいるもて下直にして其得ること多きを以て幾許の艱苦を凌き其所に到ること云

一島夷滿州入貢の事八附録に詳載いるを以て爰に贅せず

産業部下

一島夷鍛冶とるべ事蝦夷島近代なれところなり（按に往時本邦の諸鐵物蝦夷島あるねうざ紙時て鍛冶して其角器を製せしなる一一北地ソウヤ邊の老夷其業を熟知もる者あり近代小ふつて本邦の諸物漸〻島中に編くなりよりて其業廢せしものなるべし）其業態他邦に傳へ来るもの小あるべ蓋島夷の考得て自ら製もるかもるなるべし

一鞴二種あり其形状圖のごとし　上圖の鞴は魚皮を以て風囊と製し　囊頭木耳を附て持ところを木風口の筒を木を彫て合せ製し下圖の鞴は水豹の皮を以て風囊を製し鋏床と石面の平なるを用ひ鋏槌は　本邦の易なるべきものを用ひ其他斧の類何よりも打鉦の用をなすべきもの

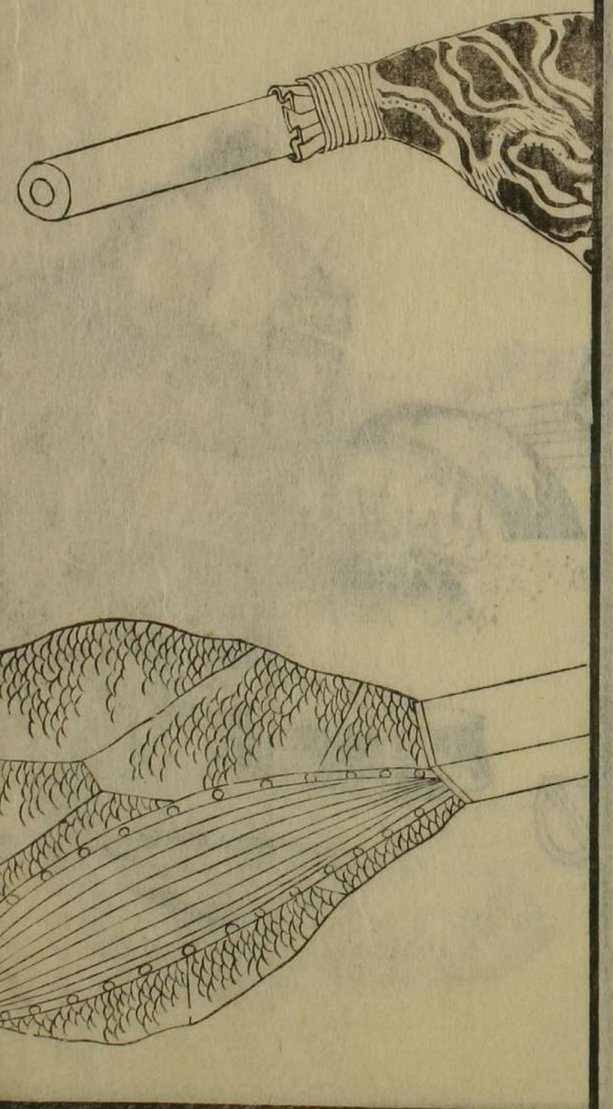
一その鍛冶となる處は大抵家側に庇を設け其内にて業をなす

一業態は圖のごとく鞴二本を地上に置き筒口を相差べく土塊を以て其上をおほひ塊面一口をうがち一束として両手に二頭の風囊を持し上下にして動揺せしむる時は塊口にて風を發し大盛なるあり　本邦の鞴に異なるあるべし一束其側に居にて鋏を鍛錬し其器を製し

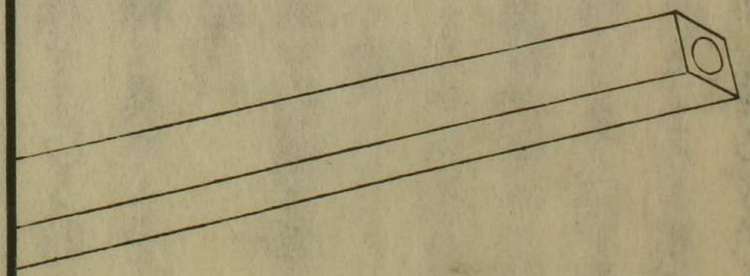
一下圖の鞴を用る時は左手に風口の筒を握る右手風囊乃口を把て風の漏しざるやうに囊を捻ぢて風を出さしむ

一其用るところの地鋏は悉く　本邦のごとき鋏にして鉗鋏といふものなし大抵船釘の類其他何によらず古鋏物を用ふ皆シラヌシに来て交易し帰るとまちのそのなり

一其鍛錬の法　本邦鍛冶のちがひとところに異なるところなくて乃鋏鍋にて打延べ又鋏を継ぎ足べる時は其鋏に灰



鞴圖



鍛冶圖

泥の類とゝして火中ニ入火鉄となして凡刀斧の類製ー
終て後焼刃と入るゝ　本邦のごとく水中ニ入れて是
をるゝ然れども鍛錬の具備らざれ精巧の器を製し出ス
ゝ〳〵あゝ〳〵ゝ製ゝるゝゝ悉く虜ゝて可悦物也

一諸鍊物　本邦の渡ゝゝゝゝゝゝて大抵其用ゝるゝゝ見る
ゝゝゝゝ且地習みて物を削ること向ゝ押ス事稀ゝて
前ゝゝゝゝ是を削る故ゝ五刀のゝ刀を製ー用ゝるゝゝ圖の
ゝゝゝ

冠婚葬祭

一冠ハ蝦夷島のゝゝゝ木を以て是を製ス然て其禮なー只熊祭

等の時衆夷皆是とかゝむる

一婚ハ蝦夷島ニ異るゝゝゝを聞ゝゝ然ゝゝゝゝ其式必小異ある
ゝゝ林蔵親視せざれゝて其詳をゝゝゝ

一蝦夷島ゝ夫逸ー婦勤むるの俗ゝて其身の衣服ゝ云ふ
ゝ及ゝゝ其夫其子の服皆一婦ゝ織出ス　アツシ布なり此島
是ニ及ー　アツシ。デタレベ乃類あるゝゝゝゝ草木無數ゝゝ
ゝ多造ゝるゝゝ絲ゝゝゝゝ男女の衣服大抵交易ものを用
ふ故ゝ男夷勤て山猟ゝゝー　我邦山且ニ交易ゝて其婦ニ
衣せざるゝゝ得ゝゝ況其倍女を貴び衣服ゝゝ色ゝの飾器を
化ることゝゝれハ夫勤め婦逸ゝゝ倍習ゝて蝦夷島ニ及ゝゝ

一 葬禮ハ蝦夷島と大に異にして凡酋長たるもの死せる時ハ先腹をさいて腸を去り家外に圖のごとくなる床を設け其上にあげ置日々女夷をして水をそゝぎ是を洗しめ日に乾して腐敗のことなからしむ是を名付てウフイと云如斯する事凡一年（一年を經るにあらざれハ其棺成就しがたし）許の日月を經て其四肢身體少しくも臭腐のことなき時ハ大に女夷を賞して衣服酒烟草の類を與ふ若少くも腐敗する事有に當ては忽女夷を殺して先に葬り其後死人を埋葬すと云（女夷を殺す乃事近代に至て廢するに似たり）

一 棺ハ長大にして其文彩を彫刻する事實に精工を極るものなれバ衆夷力を盡すといへども凡一年許を經るにあらざれハ其巧を終ることも能ざれバ此棺成るを待て死人を納め送葬すといへども地中に埋没するにあらず只地上に暴露す

一 女夷ハ地中に埋葬して碑を立ること圖のごとし

一 凡死者ある時ハ父子兄弟親族の者ハいふに及ばず他人といへども相集りて涕泣号哭することハ蝦夷島も然りといへども此島ハ尤厚ければ總て夷情を熟察するに七情中哀情殊に深きに似たり死者の事ハ年を經る後といへども談話するときハ泪を忍ぎ若言止ことを得ずして其者の死状を説くに至れバ

牌圖

逢久別人圖

他人をいとゝ垂涙して是と語て或離別して後其人の事狀
言ふことを忌て言其事に及ぶ時は相思の情は堪ざる成以て
知べし故に葬祭の事は詳聞ることを得ざるゝと云

一貧賤夷のごとき小葬事総て蝦夷島の如し

一蝦夷島死者ある時は家を焼ことあり此島是とかさぬ横
死の者ある時は其家を焼と云

一祭事は蝦夷島に異る事なし

一拜禮の類其他の小禮大抵蝦夷島のるゐとゝろのごとく只久
別の人に逢時は圖の如く相對して手をとりて合ることを凡之
次ぎて涙を垂し其後手をとらあるく共に退き互の安否と

何れと問て語ることを

一此島に於は蝦夷島のごとく熊祭をなす其行事大抵異狀ある
ことなく唯熊を養ふ事凡二三年ふるゝ漸長大して其
事を行ふ故に其熊牢を破て人を咬ことあらむかたを恐れ
時くその齒牙を斷て其狀圖のごとゝ先牢中の熊を縛いら
ふ縄を以て弱を造て牢中に入れ縄の両端は牢の左右外て
出して二夷是を把て一夷の側より竿を牢中に入れて弱を付
熊の頸に纏ふを待て左右より両夷縄を曳時は頸束て熊拔
躍ることあるゝ其時牢蓋を發て牢中に入て其四足
を縛ることあるゝ圖のごとくして牢外に出て衆夷捕擁して

去熊齒牙圖

其歯牙と断たる断器と鋸のごとき物ハ刀の刃ハ割痕とふ
しなる器ハて夷の自製ハるところなり祭時の殺法蝦夷
島木と以て壓殺し此島ハ射殺と法とし
一　凡熊祭の事ハ奥地ヲロワコ○スメレンクル○サンタン○
コルテツケの諸夷とハ行ざるところなりと云

ヲロワコ夷の部

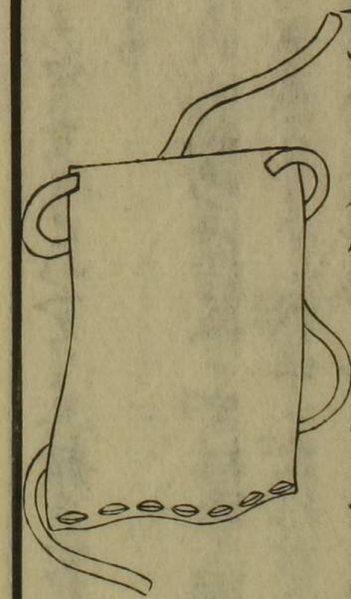
一　東海岸シー○クライカより奥地ハヲロワコと称ハる異俗
の夷あり其人物大ハ蝦夷島ハ異なりて其言語も又ひがし
うらびの理髪総て剃切のごとく男夷ハ一組ハ〳〵く背ハ
垂れ或ハ圓のごとく束て頸ハ垂る其情態俗習唯ハ一時の

應接あれハ詳なるあらずとハいへて其顔色容貌下品ハた
て暴戾無慙と表せり
一　女夷ハ髪を乱垂せび大抵両耳の後ハ束ねて或ハ圓のごと
く組て背ハ垂又ハ男夷のごとく頭上ハ束ねたる者あり
其状一ならび其容貌顔色蝦夷島ハ比しては美艶ハて且
人ハ媚るの妖態多く浴湯施粉のごとくもなりわるいとも目く
其面を水濯し其頭を撫て粧飾とする者多し
一　耳飾の環ハ南方と異ハて男夷ハ小環とはけ女夷ハ大環
ハて圓のごとく数環の玉を飾とし
一　衣服ハ大抵水豹皮魚皮其他何ハらびに獣皮を以て是を製

以木綿衣のたとへ皆山丹夷と交易するところのものなり

一此夷も又獣魚皮を以て製し脛衣履韈の類を著ること南方に如し

一男夷被服の下襌子の上白布を以て製する褌蚩のごとき ものを著し其端貝歯を附て飾となすこと圖のごし其被服に狀南方と大小異なりて衣服のこと殊小短く漸く腰と下



るのみにして襌子脛絆を著たるさまを實に孜々競々として其業となすものと知るべし

一女夷は肌膚を出すことを恥ともせずして其衣長くして踵に及び内猶襌子脚絆を著けて裳を飾銅を著ること圖のごし

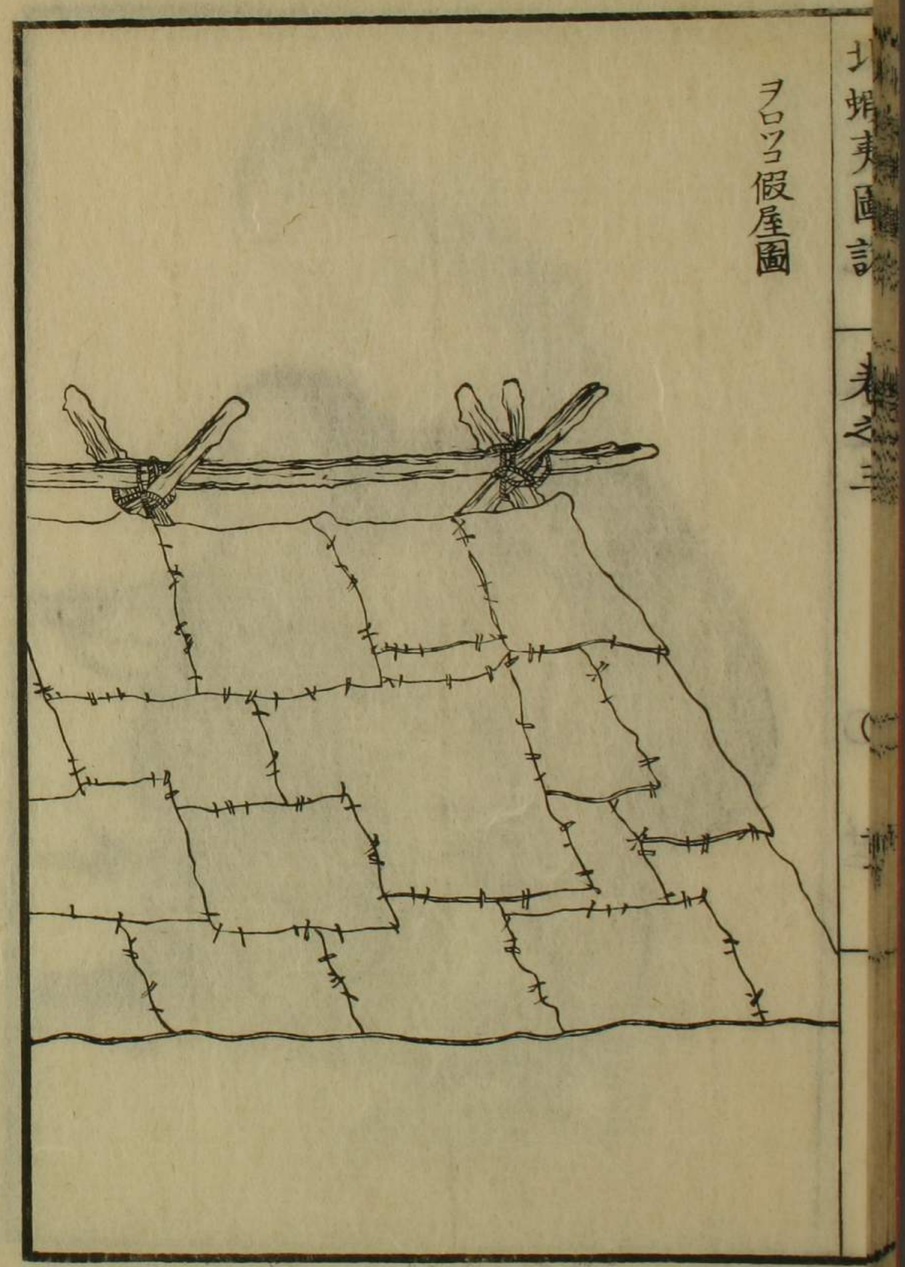
一飲食の事は南方に異なることなし獣魚の肉或草根木實を食し

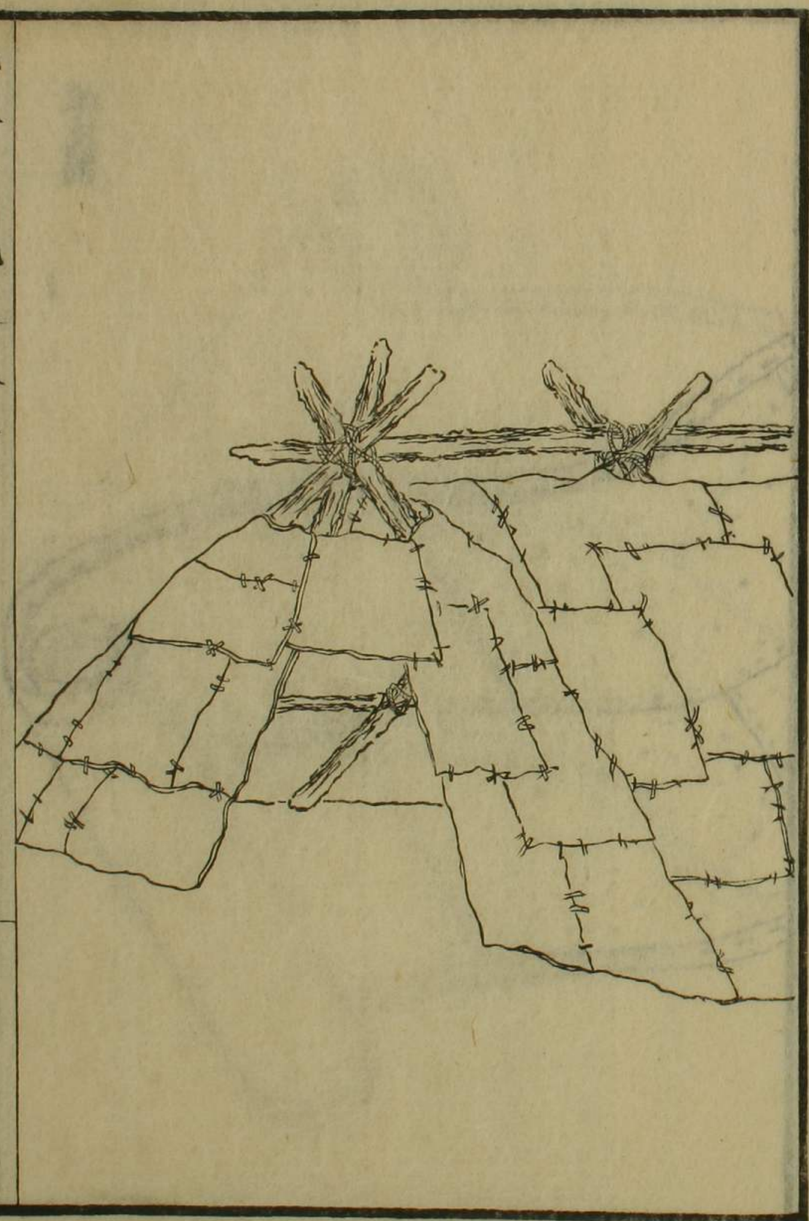
一其居家一處に永住とせずして水草魚獣の利を追ひて時々諸方に遷移し一所に處圖のごとくなる假屋を營て其内に群居して業となす然れども其遷移する所大抵地界あるて妄に轉移せざること若し冬月に至て漁獵その獲物なき時は百里の外に遷移することあるとなり其平生たる漸四五十

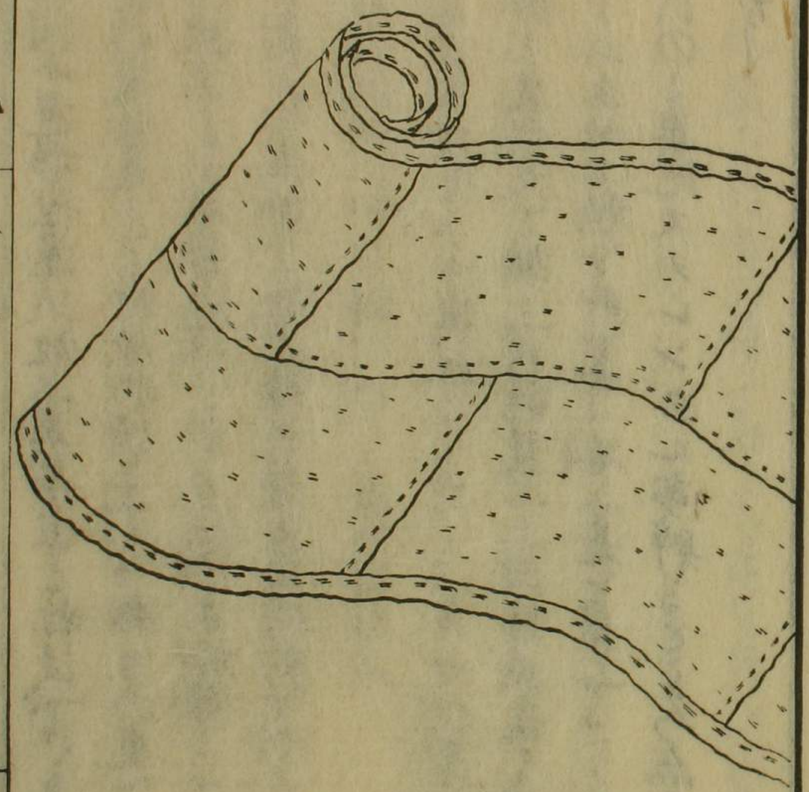
ヲロツコ夷圖　其一

其二

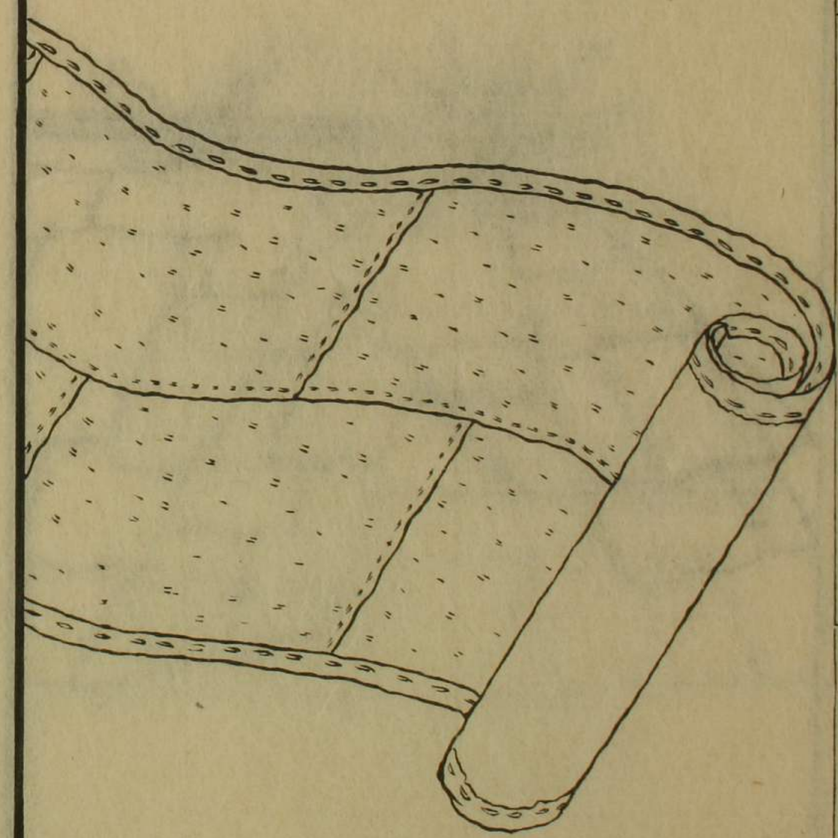
ヲロツコ假屋圖







綴皮圖



里の間に遷移往還に故に其居家を称してきあるゝ

一假屋の製初夏より仲秋の須までは雜木の皮を剥来て屋を掩ひ秋末より暮春の須に至るの間木枯燥して剥ぐのゝざる時は其貯る所の樺木皮魚皮の類を以て製したる本邦の桐油の如き物を以て屋とおゝ

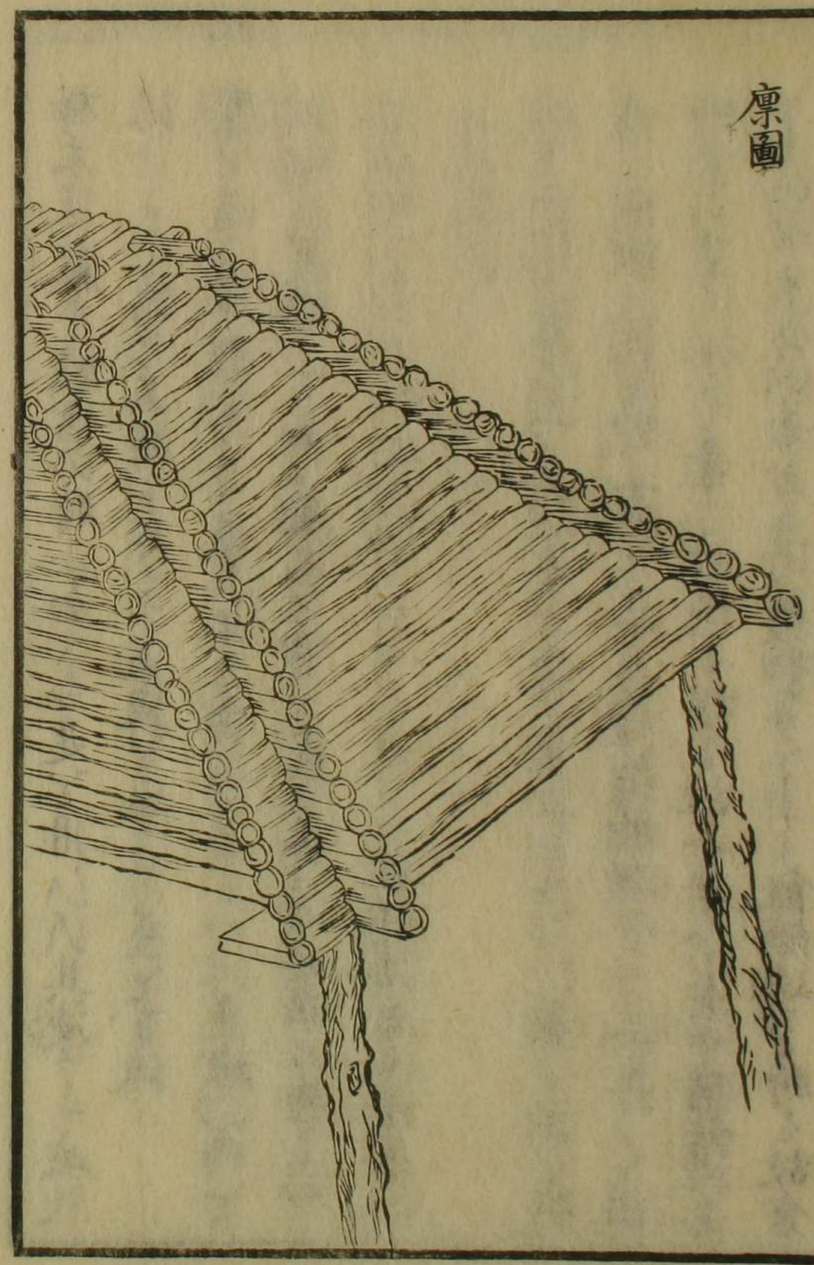
一樺木皮魚皮とも小幾枚ともなくモウセの糸を以て綴て合せ樺木皮の大さ横三尺許竪二三間許魚皮は一間半四方許より製し平生此二種を貯置て妄に是を用ふることなく冬月の用なくの奥地スメレンクル夷貯るところ亦是に異なるなし

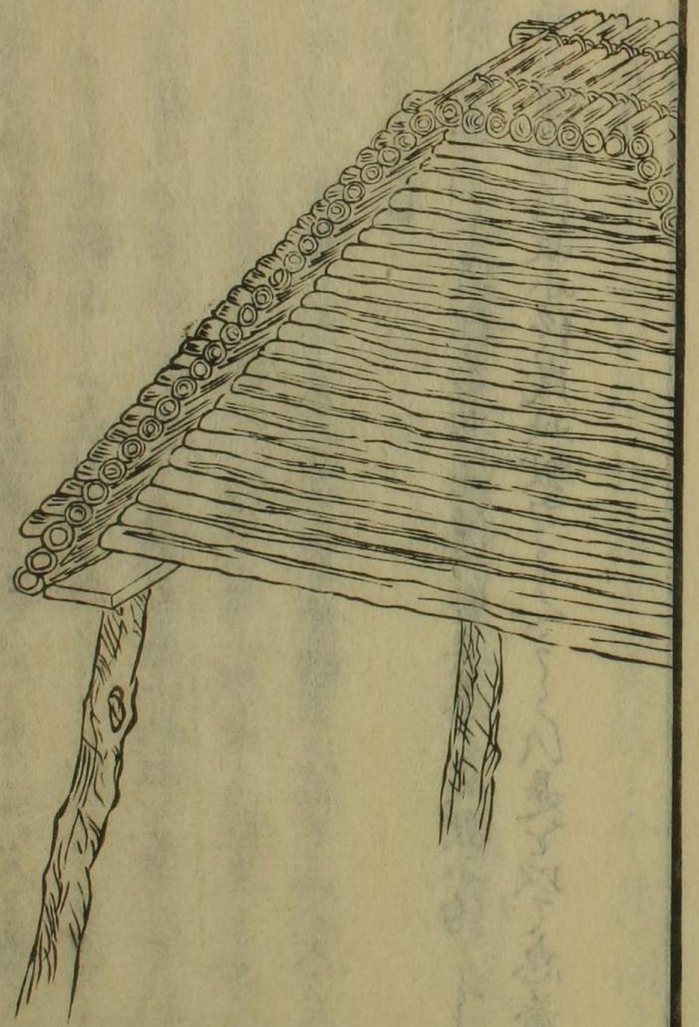
一樺木皮嚴冬積雪の時に至りては是を用ひて其凍て破敗ることを恐れ其時に至りて魚皮を出して屋とする

一廩を造る事固のごとし是其平生食するところの魚獸の肉を蔵貯に遷移してゐる處木を切て是を造て又他所に移る時は棄置て去るゆゑなれども夕ライカより奥地海濱山澤各所に建在に

一此夷漁獵の事をつとむるたる實に其力をきわむ故に至る所多く魚獸の肉を貯ふ然るに其處獲物漸少きに至りては猶貯食あるといへども棄て他所に移る故に無人の倉中猶餘肉あるものゝ少からざる若し獲物なくして飢餓迫る時は故倉

廩圖





ゆ廻りて其餘肉を索求して食ふ

一生産の事漁猟の態総て南方初島に異る所なし只犬を養ひてトナカイ獸とつゝゆ是初島に異る所なしかなると分貧富ゆ向て其數多少有のゝゆして大抵家毎ゆ此獸を養ふ貧者なし富貴なる者は凡拾二三頭を養ふ初夏より秋末に至るの間は野間ゆ放養し冬月ゆ至り草葉枯盡る時は山ゆ入て松蘿を食せしむ

一夷遷移するゆゝゆ諸雑器或は漁猟の皆具悉く此獸ゆ約して運ずる所ゆ運送る故ゆ終歳此獸なくんば是を以て恵養惰るなし

一此獸性軟柔ゆして犬を忍る故ゆ使犬の夷落に入て居と同うもてるなくと得ば

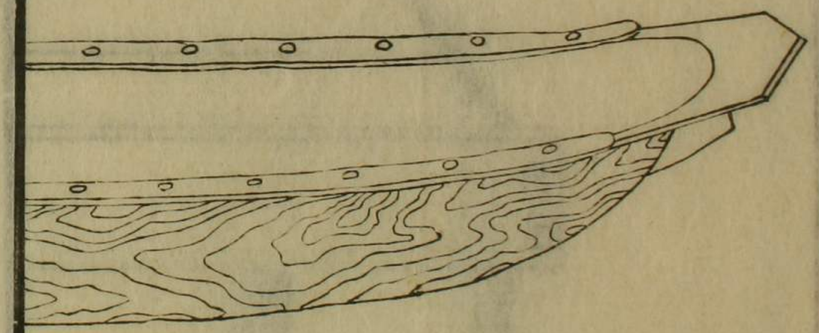
乾隆御製集曰東海有使鹿部落使鹿負物如中國役馬然其鹿似常鹿而稍大名乾達漢

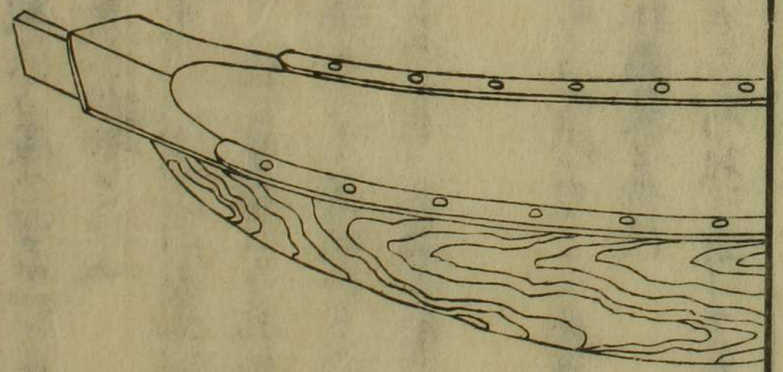
一冠婚葬祭の事総て其事實を見聞る處なるなきを是を記る なくと得ば結婚の事其同種の者ゆあらざれば異族の者と通ずるなくとなれば人死する時は圖のなくなる棺中ゆ納めて街上に暴露る

一夷等相戰て人を殺し或て怨怒る所あて竊ゆ人を殺し其事發覺るるるとゝ雖ども其親子兄弟讐と報ふ事なし

ヲロッコ棺圖

ヲロツコ川舟圖





其罪を責め其人を捕て蔵ひる慶の寶器を出し其罪を謝せ
たむ奥地スメレンクル夷亦如斯とい
一器械の類まゝ異る物と見ゆ只一品の川舟夷の自ら造るゆこ
ろ其物あり其形圖のごとく殊に堅實なり其他海船の類皆南
方夷の製ひるところ乃物ゆして異形のまれなり
一弓矢の類総て南方小異るたゝ只服其製と異ふ圖スメ
レンクル夷の部ふ出ス
一此夷種中亦集毎ふ酋長なるものあるゆく庶夷を指揮ひるこ
南方の如し酋長の方名林蔵是を失ス
一此夷ハ事實ハ林蔵唯見るところ孤ふして本よりと暫も同居

セしかるゆえに初島夷のごとく親昵ひるところあるべ故
ふ其情態の巨細を知るゆ〻ひるべ

北蝦夷圖說巻之三終